



## 【兼松藍子選手】

TEAM R×L 所属  
健康づくりのため30歳からランニングを始める。  
身体も強くなり、気持ちも前向きになれるマラソンの魅力に惹かれ、各地の大会に参加。  
100km、24時間走のウルトラマラソンをメインに活動中。

## 【主な戦績】

- 2018年
  - ・チャレンジ富士五湖3LAKES 5時間50分05秒 優勝
  - ・柴又ウルトラマラソン60k 4時間41分13秒 優勝
  - ・サロマ湖ウルトラマラソン 7時間49分19秒 3位
  - ・IAU100k世界選手権 7時間44分58秒 個人5位 団体優勝
  - ・四万十川ウルトラマラソン 8時間03分16秒 優勝
  - ・IAU24時間走アジアオセアニア選手権 212.700km 3位 団体優勝
- 2019年
  - ・チャレンジ富士五湖4LAKES 8時間49分38秒 優勝
  - ・ウルトラマラソン世界遺産シリーズタイムランキング優勝
  - ・IAU24時間走世界選手権 242.440km 6位 (日本女子歴代3位)



次々と目標となる大会が中止や延期となる中、私たちの手作りの大会開催への思いに強く共感して頂きご参加く事になりました。  
大会に向けての練習モチベーションアップや走ることの楽しさを思い出してもらうために、そして、驚くほど豪華な参加賞にも賛同され、皆さんと一緒に楽しく走ってくださいます。



## 【近藤尚紀選手】

- ・フルマラソン  
2° 43' 28"
- ・ハーフマラソン  
1° 07' 40"
- ・10,000m  
30' 36"07
- ・5,000m  
4' 34"65

## 『走る楽しさを伝えるために自分を活かす』

箱根駅伝に出ることを夢見て、中学から長距離にすべてを費やす毎日。  
箱根駅伝常連の大東文化大学に入る。厳しい練習をこなしてきたにも関わらず全国の精鋭の集まる駅伝部ではレギュラーになれないまま卒業。  
一般企業に就職し走ることから離れていたが、縁があり陸上競技場を管理する会社に転職。  
20代の若さにして、厳しい練習で鍛えられた瞬時の冷静な判断力や、集中力や信頼感が買われ、刈谷市総合運動公園の施設長に抜擢される。  
今は、自分自信のタイムへの挑戦ではなく、「スポーツをする楽しさや充実感を伝える」ことが、近藤選手の毎日のすべてのベクトルである。

今回は、このような状況下でマラソン大会を開催する私たちに、『是非お役に立てることを』とゲストランナーを務めて下さいました。  
軽やかな走り笑顔で皆さんと一緒にNAGOYA aroundハーフマラソンを一層盛り上げて頂きます。

